

合五勺位を投入して物品を洗ふのであります)

顔用香水製造法、此の製法は苦扁桃水三十匁と、薔薇水百二十匁と、蜂蜜十四匁と、蒸餾水四十匁とをよく混ぜ合せまして、瓶に入れ、密栓して貯へておくのであります。此の香水は専ら顔面の様な所へ塗るに適しております。殊ににきびをなかし、面部を軟かにし、且つきめをこまかにするに特効あります。又其の香氣頗る佳良であります。使用の際はよく瓶を振つて用ゆるのであります。

富士ちゃん日記

(明治三十四年十一月生)

會員 某 女

明治三十五年八月七日 昨夜は十時頃までも起きて居り、又今朝は五時頃から目をさましたから、

餘程よくひるねをする筈であるに、わたり暑さためか、少しもねず終日機嫌わるし夕方湯をつかひ、それから漸く眠りたり。

八月八日 始めて器具のガラ／＼を廻すことを覺え、ヤー／＼と言ひながら、切りに喜びて遊ぶ。夕方取交ちやんに、肩車をして貰ひ、あまり喜しさに、ケラ／＼笑ひながら、頭をふつて額を打ち、瘤一つ出来た、しかしそれも平氣でした。八月九日 正午十二時のうつを聞き、其時計を取らんとして大騒をなし、終には持前の疝癪を起して、泣き出したり。

八月十日 始めてチヨ／＼が出来た。又アバ……も二三日前迄は口に手を當て、口でアバ……と言ふて居たのが、今日はホントに手を動してアバ……が出来た

八月十一日 今日は雨ふりて、外へ出られず機嫌わるし、仕方なしに車に乗せて庭を引廻す、終には格子戸のリンに紐をつけて、それを車の中から引きて、其チリンチリンと音のするを喜び漸く機嫌を取つた

八月十二日 三時頃叔父ちやんに抱かれ、劍舞指南所の前を通りかゝると、其内で「忽チ驚ク大蛇ノ道ニ横ハルヲ」と大きな聲で吟じたが、それに驚いて、大變な大聲で泣き出した。

此頃は誰かに抱かれると、すぐエイ〜と言ふ、これはヨイヨイと言ふ事なれども、エイ〜と言ふり言はれぬと見ゆ

祖母ちやんと言ふ事をエーチャンと言ふ、音は變れど節は殆んどおなじ様に出來た。

八月十三日 他人が笑ふと自分は可笑しくなくと

も、エ〜と言ふて笑ふまねをなす。

八月十四日 下齒が又一本出た、是で七本目。

母ちやんが、コッ〜と、せきをしたら、早や富士ちやんがマテをして、コー〜と、咽喉を鳴らす、

しかしこんな、マテをしては、よくないと言ふてなる文言はさぬ様にしてやめさせた。

八月十六日 誰よりも、一番さきに起きて、一人で遊び居つたが、何時の間にか、床の間に這ひ上、掛物をなで廻はし、下の方を、少しく汚した。

何時も、牛乳を茶碗で飲まして貰ふに、今日は始めて自分で兩方の手で、其茶碗を持ちて、あまりこぼしもせず飲だ、其手つき何となく可愛らしかつた。

アバタのある屑屋が來たら、ドー云ふ譯か、それに抱れたがりて、泣き出したれば仕方なし、屑屋に抱て貰つた、處が大變に喜びて、少しもおろしませんでした。

せんでした。